

平成20年(2008年)12月期 決算説明会



コスモ・バイオ株式会社

2009.2.18

www.cosmobio.co.jp

JASDAQ
Listed Company 3386

目次

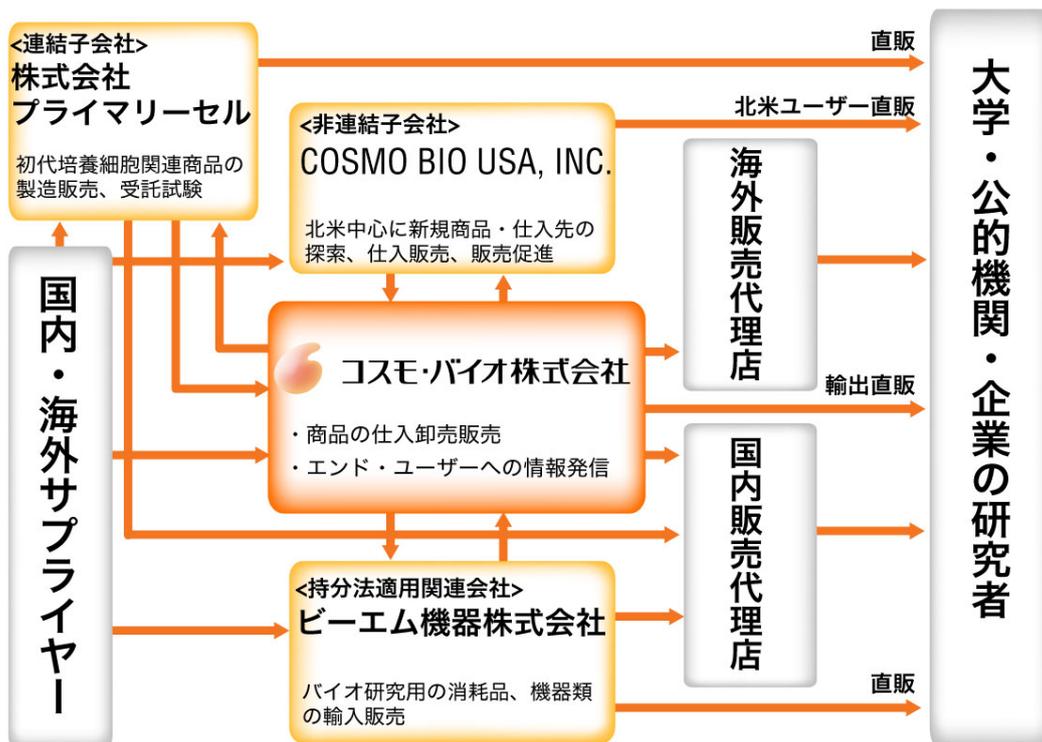
 人と科学のステキな未来へ
コスモ・バイオ株式会社

1. 会社概要と事業の内容
2. 2008年12月期決算の概要
3. 2009年12月期の見通しと今後の計画

会社概要

社名:	コスモ・バイオ株式会社
業種:	卸売業
証券コード:	3386
本社所在地:	東京都江東区東陽2丁目2-20
代表者:	代表取締役社長 原田 正憲
設立:	1983年8月
資本金:	918百万円
事業内容:	ライフサイエンスに関する研究用試薬、機器、臨床検査薬の輸出入および国内販売
従業員数:	77名(他パート・派遣社員:23名)(単体)

ビジネスモデル 「バイオ研究を支援する専門商社」



膨大な商品・情報と多様なユーザーニーズのマッチング

- ユーザーニーズに対応できる90万以上の豊富な商品
- 商品情報をデータベース化し、ユーザーが自在に検索可能
- 各種プロモーションツールによる専門性の高いサービス・情報の提供



バイオ研究とは

医療・健康

- ゲノムやタンパク質の構造や機能解析
- 再生医療、iPS細胞
- 脳や神経系システムの解明
- がんの治療や予防
- 生活習慣病
- アンチエイジング、アルツハイマー

食料

- 遺伝子組換え作物
- 発酵技術
- バイオ食品

環境・エネルギー

- 環境ホルモン
- 生分解性ポリマー
- バイオリアクター
- バイオ燃料

商品説明「代表的な商品」

- 汎用試薬（バイアル単位で販売）
 - 抗体
 - 売上の約40%を占める商品群
 - 商品数約21万品目を取り揃える
 - その他
 - ホルモンなどの生体内物質、培地添加剤、ケミカルなど

- 応用試薬（用途に合わせて試薬等をセットにしたもの）
 - 遺伝子
 - 遺伝子解析、タンパク質発現等の研究で用いられるキット
 - その他
 - 生体内物質や環境汚染物質の検出定量キットなど



商品説明「代表的な商品」

- 機器
 - 小型電気泳動システム「i-MyRun(あいみらん)」
 - 超音波細胞破碎装置「Bioruptor(バイオラプター)」
 - 倒立型細胞観察マイクروسコープ「セルウォッチャー」
 - バーチャルスライド「Toco(トコ)」
 - コンパクト遺伝子増幅装置「PIKO(ピコ)」など

- 臨床検査薬



投資等

■ 2008年度

- 1月～3月にかけて、逐次、第一化学薬品社(現積水メディカル社)の試薬事業の譲受
- 6月バイオベンチャー育成のためのファンド運営及び施設を提供する、バイオ・サイト・キャピタル株式会社に出資(600株 1,500万円 持ち株比率3.5%)
- 7月株式会社プライマリーセルの他社所有株式20%を取得(1,000株 1,000万円)し完全子会社化
- 7月再生医療分野のバイオ研究支援機器・材料事業に取り組むコアフロント株式会社に出資(180株 1,440万円 持ち株比率12.8%)
- 9月バーチャルスライド「Toco(トコ)」を製造販売する、株式会社クラロに出資(120株 1,500万円 持ち株比率2.5%)
- 12月株式会社プライマリーセルの第三者割当増資引き受け(10,000株 100百万円)

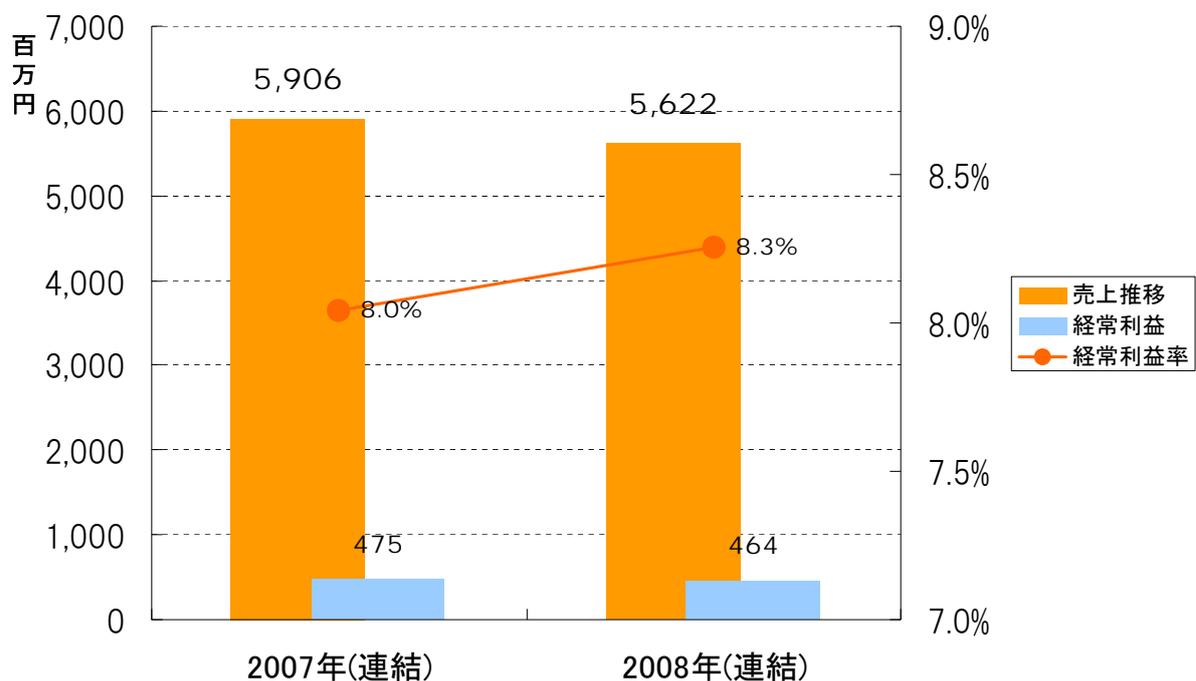
2008年12月期決算の概要

決算概況「損益計算書(連結)」

- 主要仕入先の一部消失による売上高減(▲546百万円)
- 売上高伸び(262百万円)
- 円高による売上総利益の増
- 特別損失281百万円計上

(百万円)	2007年実績	中間期修正値	2008年実績	増減額	前年同期比
売上高	5,906	5,743	5,622	▲ 284	▲ 4.8%
売上総利益	2,256		2,223	▲ 33	▲ 1.5%
販管費	1,672		1,775	103	6.2%
営業利益	583	431	447	▲ 136	▲ 23.2%
経常利益	475	430	464	▲ 11	▲ 2.2%
純利益	243	▲39	104	▲ 139	▲ 57.0%

売上高・経常利益推移(連結)



商品分類別売上

- 販売中止した主要仕入先は抗体中心の商品構成
- 応用試薬はELISAキットや遺伝子発現解析キットの商品が好調

(百万円)	2007年実績		2008年実績		増減額	前年同期比
	金額	構成比	金額	構成比		
研究用試薬	5,431	92.0%	5,121	91.1%	▲ 310	▲ 5.7%
汎用試薬	3,384	57.3%	2,851	50.7%	▲ 533	▲ 15.7%
応用試薬	2,047	34.7%	2,269	40.3%	222	10.8%
機器	291	4.9%	308	5.5%	17	5.8%
臨床検査薬	182	3.1%	192	3.4%	10	5.2%
合計	5,906	100.0%	5,622	100.0%	▲ 284	▲ 4.8%

貸借対照表(連結)

(百万円)	2007年12月期	2008年12月期	増減額
総資産	5,302	5,194	▲108
流動資産	3,723	3,927	204
固定資産	1,578	1,267	▲311
負債合計	951	1,009	58
純資産合計	4,350	4,184	▲166
株主資本	4,339	4,292	▲47
株主資本比率	82.1%	80.6%	

キャッシュ・フロー計算書(連結)

(百万円)	2007年12月期	2008年12月期	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	392	454	62
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲71	185	256
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲141	▲151	▲10
現金および現金同等物の期末残高	719	1,206	487

営業活動：仕入、法人税の減少

投資活動：運用資金の償還

財務活動：配当

3. 2009年12月期の見通しと今後の計画

2009年12月期の業績見通し(連結)

- 仕入先消失▲470百万円・売上増190百万円
- 棚卸廃棄損を営業外費用から売上原価に含める

(百万円)	2008年12月期 実績	2009年12月期 予想	増減額	増減率
売上高	5,622	5,339	▲ 283	▲ 5.0%
営業利益	447	341	▲ 106	▲ 23.8%
経常利益	464	371	▲ 93	▲ 20.1%
純利益	104	216	112	106.8%

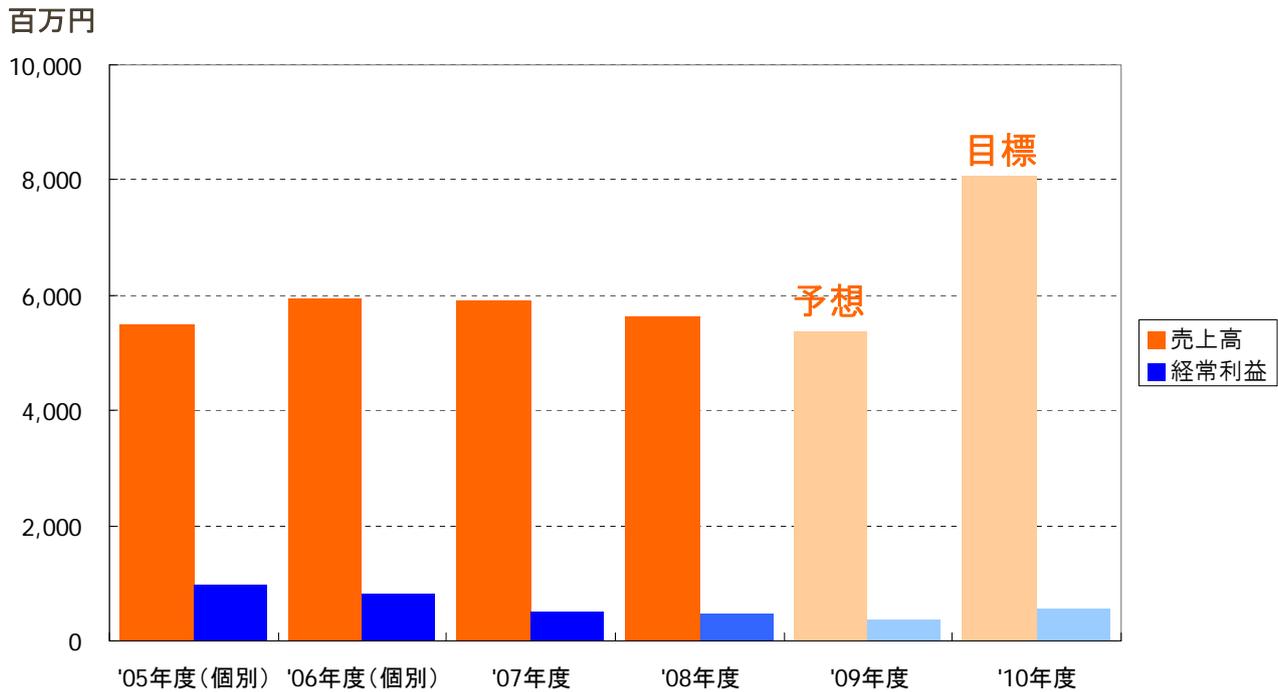
配当金予想	1,100円	1,200円
-------	--------	--------

平均為替レート	2008年	2009年期(計画)
円/USドル	105円	100円

配当方針

- 2009年度
 - 株主に対する利益還元は、経営の重要な課題の一つ
 - 安定配当を行っていくことを念頭に置き、配当性向を重視しつつ、今後の収益状況の見通しなどを総合的に勘案して決定
 - 2009年12月期の年間配当金として、1株当たり1,200円(予想連結配当性向33.6%)を予定

2010年までの売上と経常利益目標(連結)



2010年目標達成に向けた事業戦略

1. コア事業の強化
2. ブランドの創造
3. 海外展開の加速
4. 子会社、出資会社とのシナジーの創出

1. コア事業の強化「先端的商品の導入」

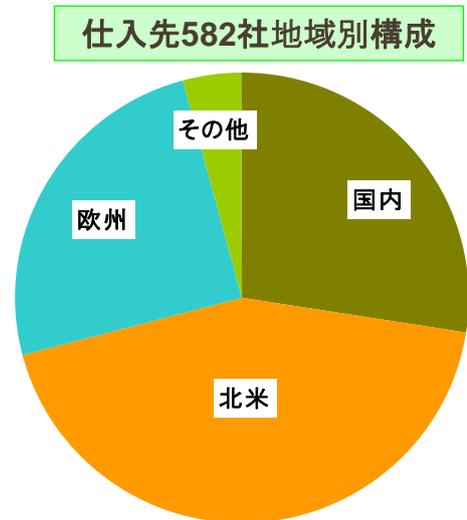
■ 先端技術を持った仕入先からの先端的商品の導入

● 2009年目標

- 新規仕入先：50社以上
- 仕入先との信頼関係強化

● 2008年実績

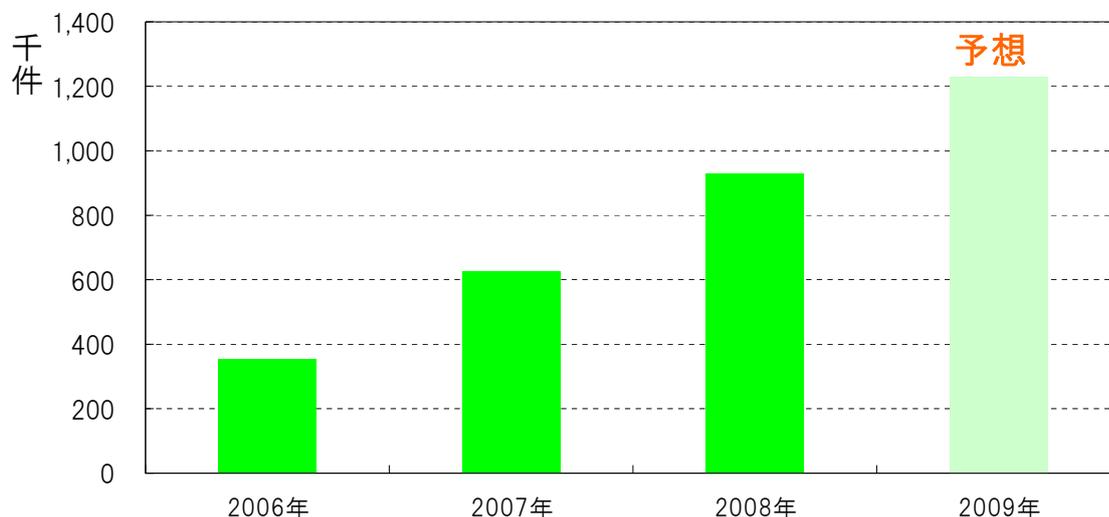
- 新規仕入先：45社
- 仕入先合計：582社



1. コア事業の強化「先端的商品の導入」

■ 2009年度 取扱商品数は100万件を超える予定

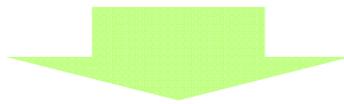
取扱商品数推移



1. コア事業の強化

「差別化したサービスと効果的プロモーション」

- WEBにおける販売促進活動の強化
 - ホームページのリニューアル
 - 商品検索サイト「コスモ・ザ・サーチ」のリニューアル
- 新たな体制による組織営業の推進
 - 代理店、ユーザーとの密接な関係構築
 - 新基幹システム導入とその活用
- お客様窓口による専門的な相談サービスなど



お客様に信頼され喜ばれる

1. コア事業の強化「機器販売の強化」

- 関係会社、特にビーエム機器社との連携を強化
- 機器営業と試薬営業の密接な情報連携
- 電気泳動装置、PCR装置、超音波細胞破碎装置など小型の機器を中心に展開

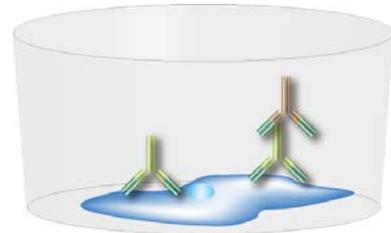


1. コア事業の強化「細胞事業の強化」

■ 背景

- バイオ研究の注目が、*in vitro* (生体外)から*in vivo* (生体内)へ移行するにあたり、DNA、RNA、タンパク質などの物質主体の研究から細胞主体(セルベースアッセイ:Cell Based Assay)の研究の需要が高まっている
- 糖尿病やメタボリックシンドロームなどの生活習慣病に代表される健康志向の高まり
- 製薬、健康食品、化粧品企業における細胞評価実験への高い需要

セルベースアッセイとは細胞レベルでの生体反応を調べる検出系全般をいいます



1. コア事業の強化「細胞事業の強化」

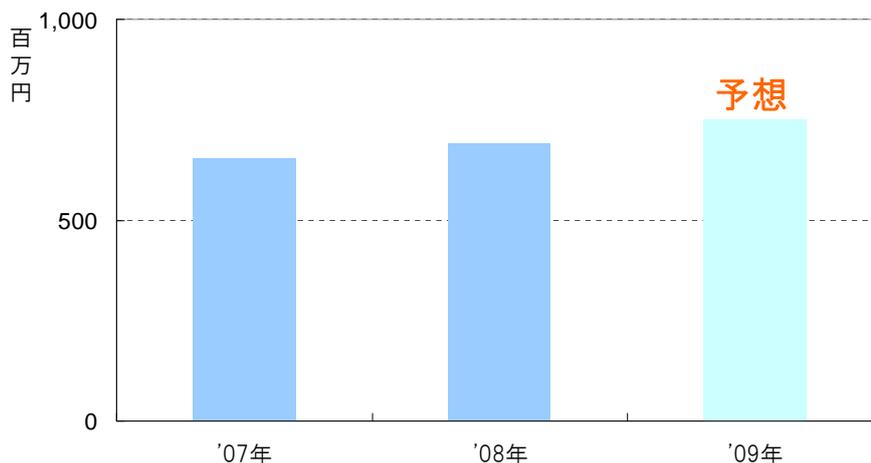
■ 今後の細胞事業計画

- セルベースアッセイ商品ラインナップの充実
- ヒト細胞機能評価のためのアッセイ系の確立
- 細胞を中心とした各種受託試験サービス提供の拡大
- 各種細胞培養培地の開発



プライマリーセル社とのシナジー効果

細胞分野の売上推移



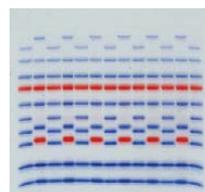
2.ブランドの創造 「質の高い情報発信と顧客サービス」

- 学術ミーティング
 - 3月:第8回 日本再生医療学会総会
 - 10月:第82回生化学会大会
 - 12月:第32回日本分子生物学会年会
 など多数の学会に展示参加予定
- 印刷物
 - 年6回の「コスモ・バイオニュース」を発行予定
 - ユーザーのニーズが高い分野の特集カタログを発行予定



2.ブランドの創造 「質の高い情報発信と顧客サービス」

- 高品質自社ブランド商品の充実
 - 高品質抗体ブランド商品
 - *CosmoBio Antibody Collection*
 - 高品質電気泳動関連商品
 - i-MyRun(あいみらん)
 - マルチゲル
 - 高品質細胞培地
 - コスメディウム



2.ブランドの創造 「社会的貢献」

■ 大学の公開講座等に協賛

- 2008年 第5回 公開講座応援団は13の団体に協賛
- 2009年 第6回 公開講座応援団も継続実施

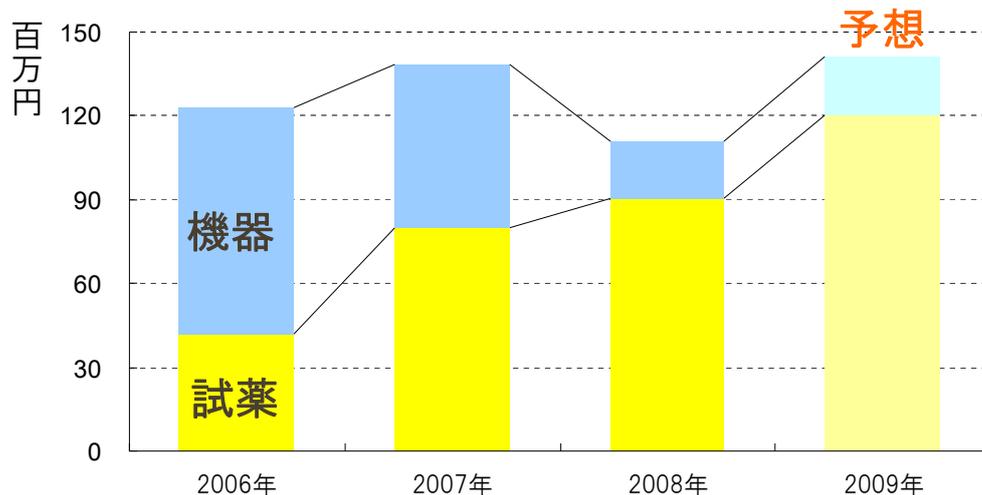


九州大学 農学部 附属農場
「体験！農業と食料・環境問題-農業体験を教育に生かしませんか？」

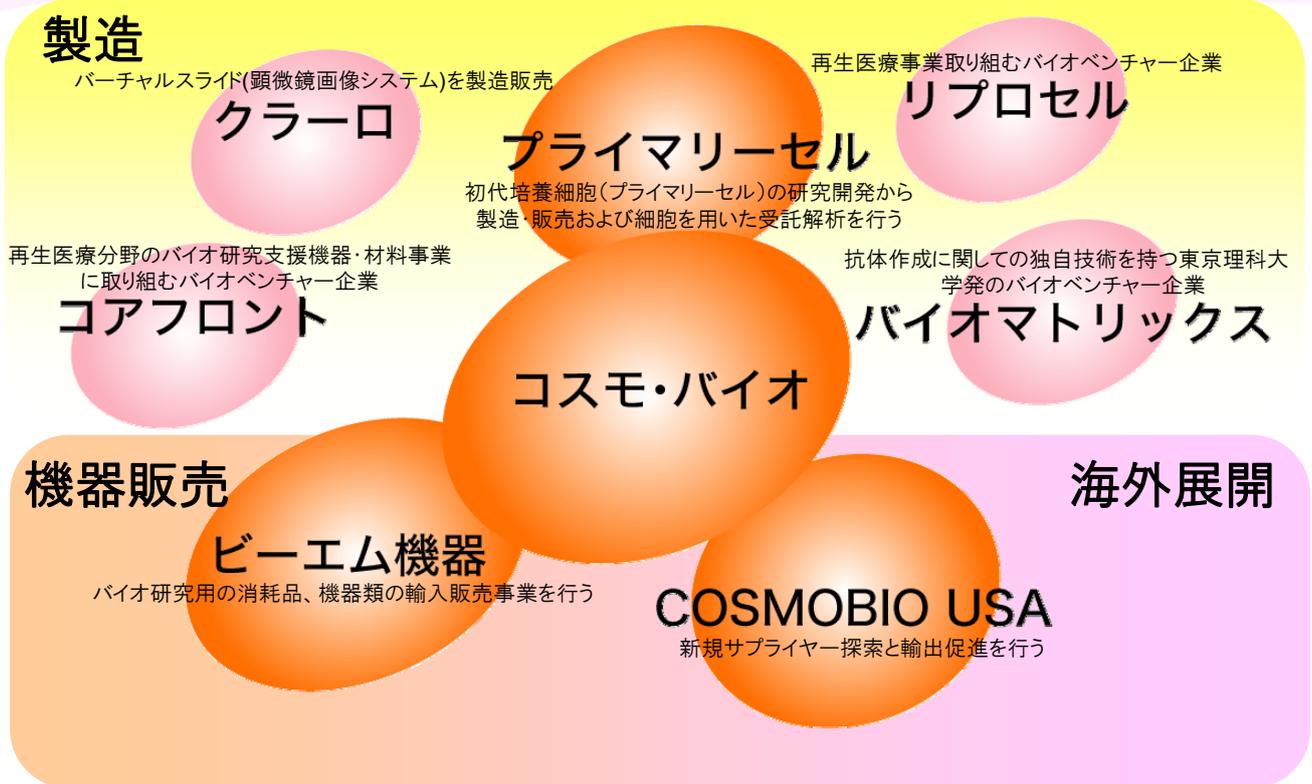
3.海外展開の加速

■ 今後の展開

- 輸出用商品の開発
- CosmoBio USAと連携した売上拡大
- Web、Eメール等を活用した効果的なプロモーション活動



4. 子会社、出資会社とのシナジーの創出



ご注意

- 本資料を作成するに当たっては、正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保障するものではありません。
- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述部分は、当社が本資料作成時点において入手可能な情報から得られた判断に基づいており、リスクや不確実性を含んでおります。実際の業績は、様々な要因により大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきくださいますようお願いいたします。
- 本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社株式への投資勧誘を目的としておりません。